

メディカルプロフェッショナルシンポジウム

2月11日(日)

第4会場 16:10～17:40

デバイス治療における看護師の役割

座長 河野 律子 産業医科大学医学部不整脈先端治療学
前田 明子 杏林大学医学部附属病院循環器内科不整脈センター

演者

1. 石橋 耕平 国立循環器病研究センター心臓血管内科・不整脈科
2. 船津 由美子 東京医療保健大学大学院高度実践看護コース
3. 福村 陽子 飯塚病院看護部
4. 菅 令子 鳥取県立中央病院看護局

米国では心臓植込みデバイス患者をケアするデバイス看護師などの不整脈治療における専門職が存在するが、現在の日本にはデバイスに関する専門看護師や認定看護師の制度はない。そのため、デバイス患者の継続的なケアを行うためにマンパワーを捻出し、各施設で独自にデバイス専任の看護師を配備するなどの工夫をしているのが現状である。

本シンポジウムでは、米国のデバイス看護師と協働した医師にデバイス看護師の役割についてご紹介いただき、実際に日本でデバイス患者のケアに携わる看護師にケアの必要性や業務内容をご説明いただきながら、今後の日本におけるデバイス治療に関わる看護師の役割やあり方を考えていきたい。

メディカルプロフェッショナルパネルディスカッション

2月12日(月)

第4会場 8:30～10:00

ペースメーカーの設定を考える –あなたの施設はどんなコンセプト?–

座長 渡邊 英一 藤田保健衛生大学医学部循環器内科
高垣 勝 滋賀県立総合病院臨床工学部

演者

1. 高橋 泰仁 札幌医科大学附属病院臨床工学部
2. 笹岡 俊介 済生会横浜市東部病院臨床工学部
3. 島峰 徹也 横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床工学担当
4. 堺 美郎 済生会熊本病院臨床工学部門

臨床工学技士は、単にペースメーカーの機能的なチェックを行うだけでなく、その設定についても個々の患者の状況

に応じた設定を考案する必要がある。

適応疾患に応じたモードや AV delay の設定, チェック結果に応じた出力や感度の調整, 動作不良に対するブランキングや不応期の調整など, 様々な条件から最良と思われる設定を日々考察しているものと思われる。一方で, これらの設定は施設の考え方により差異があり, それぞれの施設で基準を定めペースメーカーフォローに携わっているものと思われる。

今回は, パネリストの各施設がどのような考えに基づいて設定内容を決定しているかをご講演頂き, それを題材にオーディエンスを交えて討論したい。

フォアヌーンセミナー

2月11日 (日)

第3会場 10:30 ~ 11:30

フォアヌーンセミナー 1

Graded CRT Response

ー植込み後のフォローで CRT レスpons向上を目指すー

座長 中井 俊子 日本大学医学部内科学系循環器内科学分野

演者 未定

共催：日本メドトロニック株式会社

2月12日 (月)

第3会場 10:30 ~ 11:30

フォアヌーンセミナー 2

Doctor-D ーそのフォローアップが患者を救う!?ー

座長 三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

演者 未定

共催：日本メドトロニック株式会社